

リズムについての再検討

— 現代的なリズムのダンスを捉えるための基礎的研究として —

山本 芽依 (筑波大学)

1. 目的

本研究では、現代的なリズムのダンスの授業を検討するための基礎研究として、様々な領域で述べられているリズムについて概観・整理し、リズムについて再検討することを目的とした。

2. 研究方法

本研究は、文献による調査を基に論を展開していくものとする。はじめに、音楽、言語、身体、哲学、舞踊という5つの領域におけるリズムについて概観・整理することにより、リズムと身体との関係を捉える基礎資料とする。これを踏まえ、リズムが身体にもたらす影響、文化や社会の違いによるリズムの在り方について検討し、現代におけるリズムの状況を明らかにする。その結果を基に、現代的なリズムのダンスの授業について考察する。

3. 結果と考察

1) リズムについて

得られた結果は以下の3点である。

- ・リズムとは自然現象など森羅万象の中に見出すことのできる、似たものの反復、いわゆる更新の流れのこと。その構造は序破急に表されるような完結性のあるもので、記憶の働きにより成立する。
- ・人は、リズムを身体全体で感受する。このことにより、リズムを生み出している存在自体を理解し、また、共感することができる。
- ・リズムは、生活環境や文化、時代の影響を受けるもの。それゆえ、変容し続ける。現代は、文明の発達の影響から、ゆらぎの少ない、均一なリズムが多く見られる傾向にあることがわかった。またこのことから、身体からリズムが離れ始めていることが推察された。

2) リズムの分類の仕方について

リズムの分類の仕方として「無作為的なリズム」と「作為的なリズム」という2つに分類することができた。無作為的なリズムは、人間の意識・働きとは関係なく成立しているリズムで、作為的なリズムとは、人の手によって生み出されるリズムである。以下に図を示す。

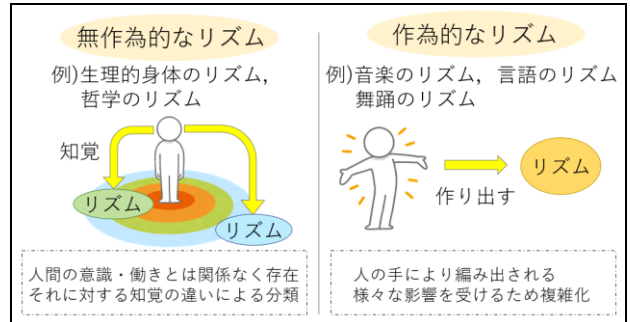


図1 無作為的なリズムと作為的なリズムの考え方

4. 結論

結果と考察を踏まえ、リズムの関係性について図2として以下にまとめる。

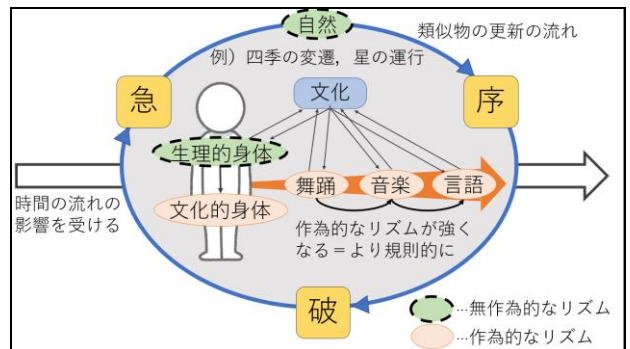


図2 リズムの関係性

人は、無作為的なリズムである自然の中に存在している。序破急という完結性のある流れである自然の中に身を置くことで、人は、今、ここで生きているという実感を持つことができる。そのような中で、生きる人は、他者を理解し、共感したいという思いから言語や音楽、舞踊などをつくり出したと考えられる。そこに内在しているリズムは、舞踊、音楽、言語と身体から離れていくにつれて、作為的なリズムの要素が強まり、より規則的になっていくと推察される。これは、リズムによる理解・共感の力を最大限に得ようとした結果であろう。以上の無作為的なリズム、作為的なリズムの全ては時間の流れの影響を受け、変容し続ける。このことから、今後は今の時代ならではのリズムを明らかにすることが求められている。本研究で明らかにされたリズムの多様性を踏まえ、次は、現代的なリズムのダンスの具体的な学習内容や指導法について検討したい。